

博物館だより



No.125

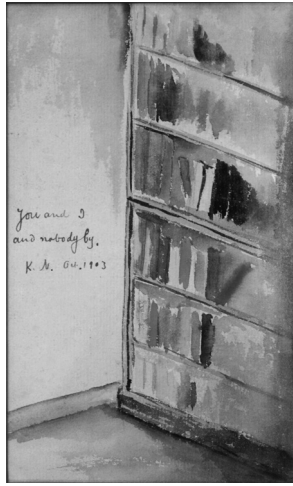
平成29年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示・ここに注目!
小宮豊隆資料
「漱石コレクション」
Vol.12

今年夏は夏目漱石先生誕生150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事物は注目的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品を、ご紹介します。
●夏目漱石画「書架図」(水彩画)

漱石が執筆を終えた午後、気分転換を兼ねての揮毫をよくしたことは前回述べた通りですが、書だけでなく絵を描くこと



▲書込みから明治36(1903)年8月の作と分る

もしばしばでした。殊に南画は晩年プロはだしとなり「生涯に一枚でいいから人が見て有難い心持のする絵を描いてみたい」と述べたほどですが、初期の作品は鏡子夫人から「すこぶる下手」とこき下ろされています。ただ、漱石のために弁護しておくと、初期の絵は水彩画で自己流だったため「下手」も仕方なかったようですが、描く目的はむしろ精神の安定にあったようで、絵を描くことで帰国後乱れがちだった心が、なんとなく落ち着いていっています。

写真の絵は精神不安がピークを迎え、夫人とも別居した時期のもですが、家族を呼び戻す思案に暮れつつ、自らの知の拠り所とした本棚を描いたところに「漱石の煩悶」が現れているように思えます。

◆講座・教室・催し物ガイド 4月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
4月1日(土) 9時30分

【古文書講座】
4月8日(土) 10時00分

【古典かな講座】
4月15日(土) 9時30分

【みやこ学講座】
4月22日(土) 10時00分

※見学会等は別途ご案内します。
※日程等変更となる場合があります。

博物館で「楽習」 始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合わせを!

○博物館友の会

バスハイク・歴史ウォーク等の学びの旅に参加できます。

○文化遺産ボランティア養成講座(第2期)
町の宝のガイド&サポートスタッフを募集・養成する講座です。

1・2月の業務日誌から

1月26日(水)、重要文化財永沼家住宅でみやこ町文化財防火点検式が行われました。文化財防火デーに因む防災行事で、今年は残雪の中での式となりました。参加頂いた皆さん、お疲れ様でした!

1月29日(日)、歴史文化カレッジ「町の宝deちょっと漱石」で、バイオリン演奏会と漱石に因む講演会が開かれました。どちらにも多くの聴衆が来場し、館内にひと時漱石ワールドが広がりました。

2月5日(日)、博物館を舞台に観光まちづくり講座「わが町の文化遺産を知る」が開催されました。当日はみやこ町の歴史的魅力を語る講演と現地見学を実施。町の魅力発信のヒントを探りました。

2月26日(日)、第11回みやこ町三重塔まつりが開催され、大勢の人出で賑わいました。会場では少年少女俳句大会の表彰式も行われ、一万句近い応募作から選ばれた入賞作が表彰されました。



▲演奏いただいた山中恵理子さん(左)と中西由紀子講師(右)



▲備え付けの放水銃を点検操作し、有事への対応を確認しました。



▲入賞された皆さん。おめでとうございます!



▲みやこ町の豊かな魅力を改めて確認する一日でした。

みやこの歴史発見伝 96
みやこ町の古い地名7

勝山地区 1

今回からは勝山地区の古い地名を二回に分けて取り上げていきます。

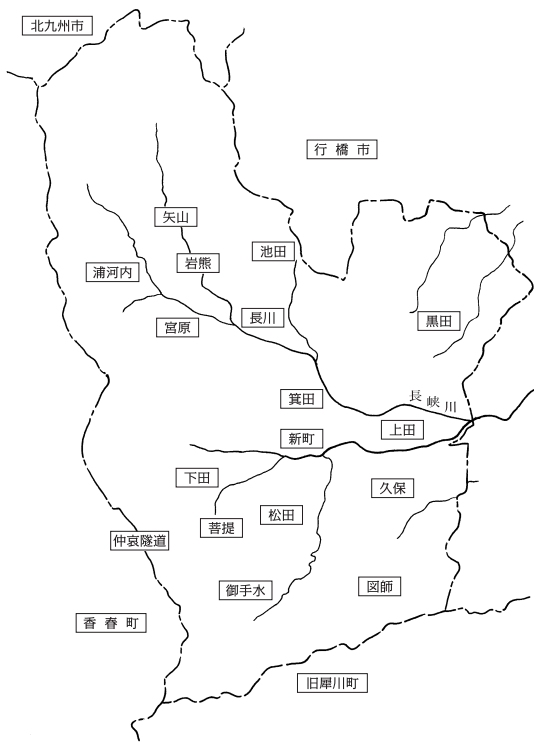
なお、掲載した内容は、主に『角川日本地名大辞典』、平凡社の日本歴史地名大系第41巻『福岡県の地名』などを参考にしています。

勝山の地名の由来は、「勝山権現神社縁起によると背後の山はもと古城の跡というから、戦国期の武将が武運を祈って好字

の勝山を城名につけたのが、勝山の名の始まりであろう」とされています『京都郡誌』。

諫山

諫山は勝山地区の北西部の広範囲を占め、小学校や郵便局などの名称として残っています。イサヤマは砂山のこととされますが、当地の岩熊、浦河内道の北側の山はイハヤマ、すなわち山砂の山で、これをもってはやくから「和名抄」諫山郷の故地に比定されていました。



▲勝山地区の地名

『日本書紀』の安閑元年(五三三)に「筑紫国膽狭山部」、天智十年(六七二)に「筑紫君薩野馬」、持統四年(六九〇)に「薩有麻」の名が見えます。

矢山

矢山は長峽川の上流で、みやこの町の北端に位置します。

地名の由来は北にそびえる屋根状の平尾台を屋山と称したものを矢山にかえたものと考えられています。

池田

池田は矢山の東方で、観音山の西麓に位置します。

地名の由来は、『京都郡誌』に「昔この地に大なる池ありしより起れりといふ」とあります。集落の北方の山中にある小松池には観音山の峰の観音に関する延永長者伝説があり、室町期の地方豪族が開いた土地であろうと考えられています。

岩熊

岩熊は矢山の下流に位置します。

地名は岩のある奥まった土地の意に由来するとも、岩は単なる山の意で、当地が山蔭にあるからともいわれています。

浦河内

浦河内は丘陵を挟んで矢山の西方の谷に立地します。

地名の「浦」は山の裏、「河内」は川の上流の小平地を意味します。

下河内の南西の味見峠は古来香春町の採銅所で鑄造された宇佐八幡宮の神鏡の奉獻路で、江戸期に入り七曲峠が開通するまでの要路に当たっていました。

宮原

宮原は浦河内の下流に位置します。

地名は、神社の所在する原に由来するとみられます。千女房のヤマザクラは町の天然記念物に指定されています。



▲千女房のヤマザクラ

長川

長川は岩熊の下流の沖積地に立地します。

地名の由来は不明ですが、江戸期には成立していたようです。

松田

松田は長川の南方の沖積地や台地に立地します。

地名の由来は不詳です。松田村は江戸期の上野・新町・下田・飛松・菅提・御手水の六か

村が明治二十年(一八八七)に合併して成立しました。

下田

下田は新仲哀隧道の入口の北側に位置します。

地名は、平安初期からあった菅提山四十九か院の下方にあつたため、寺院関係者が下田と呼ばれることに起因するものと考えられています。



▲障子ヶ岳城跡

新町

新町は国道二〇一号線と県道椎田・勝山線の交差点周辺に位置します。

地名は新しく成立した集落であることに由来します。元は上久保村の一部でしたが、元禄年間までに分村したようです。

(末永弥義)